

食肉産業展、今回も業界注目の幅広いテーマでセミナー開催



第44回食肉産業展(会期4月17〜19日)では、ことしも主催者企画として食肉情報セミナーを開催する。「食料品製造業分野における新たな外国人材の受入れ制度」、堅調な「肉食・中食需要」、また「和牛の肉質特性や輸出戦略」、いよいよ発効となった「TPP11、日欧EPA」など、幅広いテーマの講演がラインアップされている。

人手不足が深刻化する中、食料品製造業分野は生産性向上や国内人材確保のための取り組みを行ってもなお人材を確保することが困難な状況である。それを受け昨年12月に「食料品製造業分野における特定技能の在留資格に係る新たな外国人材の受入れ制度が閣議決定された。「食料品製造業分野における新たな外国人材の受入れ制度について」(講師：農林水産省食料産業局食品製造課・阿部徹企画官、日時4月17日11〜12時30分)講演を行う。また、共働き世帯や単身世帯の増加により伸張する肉食・中食市場は、10月に予定される消費税増税によりさらなる市場拡大が見込まれる。「消費者による食肉の潜在需要に関する一考察(中食・肉食を中心)」(講師：和歌山大学食農総合研究所・戴容秦思特任講師、4月17日14〜15時30分)と題した講演を行う。

輸出量拡大や高まるインバウンド需要により、国内外で改めて注目される和牛について、「和牛の肉質特性と食味(特に脂肪質の重要性)」(講師：独立行政法人家畜改良センター・入江正和理事長、4月18日11〜12時30分)、さらに輸出の現状や今後の課題などについて「和牛の輸出戦略(ますます広がる世界マーケット)」(講師：(株)ミート・コンパニオン・植村光一郎常務取締役、日時4月18日14〜15時30分)の2講演が行われる。昨年末に発効したTPP11、2月に発効した日欧EPA後の食肉輸入については「TPP11、日欧EPA発効後の食肉輸入(仮題)」(講師：農林水産省生産局食肉鶏卵課・担当者、日時4月19日11〜12時30分)と題した講演を行う。

ハイテック子会社が、国内メーカーとタイの架け橋を旨し出展



ハイテック(本社：神奈川県横浜市、中村達郎社長)のタイの子会社HITEC FOOD EQUIPMENT CO.LTD.(中村伸二郎社長、写真)は、2019モバックスショウにソーセージ「真空充填機スタッフウェル50」を展示しつつ、タイおよび中国に向けて国内メーカーの優れた機種を提案する架け橋的役割を旨として出展した。会場では、すでにタイおよび中国に進出している企業をはじめ、今後、進出を計画している企業に機械導入や工場効率化の提案や工場レイアウトなど、さまざまな相談に応じた。